

みのしょう

箕島小学校たより

令和6年9月9日

第17号

【学校教育目標】
「学び合う学校」

よく考える子ども
思いやりのある子ども
きたえる子ども

令和6年度 全国学力・学習状況調査 結果について

一学期に実施された全国学力・学習状況調査の結果が公表されましたので、本校の結果についてお知らせいたします。

実施日：令和6年4月18日(木) 実施対象：6年生

調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

教科調査の結果分析より

*学力面において、細かい桁における微小な差異は、実質的な違いを示すものではないため、平均正答率については整数値で示しています。

国語、算数ともに無回答率が低く、子どもたちは問題に対して粘り強く諦めることなく挑むことができていたと言えます。また、問題形式（選択式・短答式・記述式）を比較してみると、国語・算数ともに記述式の問題に対して全国より正答率が高い結果となっています。日頃の学習において、「書くこと」を意識した取組が好結果に結びつけることができていたと言えます。

国語

正答率を全国と比較すると 1.7 ポイント低い結果となりましたが、概ね平均並みだと言えます。思考力を問う問題より知識・理解の問題に課題がありました。

■課題①

漢字を書く問題で「競技」の「競」の誤答が多かったです。文意を理解し、正しい漢字を書けるように今後取り組んでいきます。

■課題②

課題文にある一文の意味を丁寧に読み取ることに課題がありました。言葉一つ一つを丁寧に考える機会を設けることが必要だと考えています。

算数

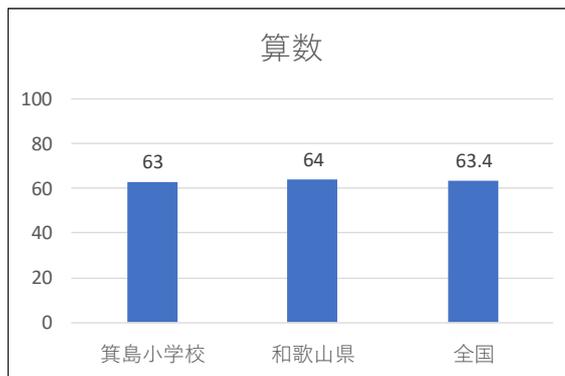
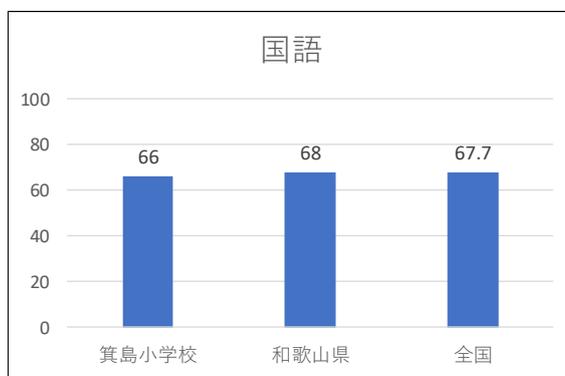
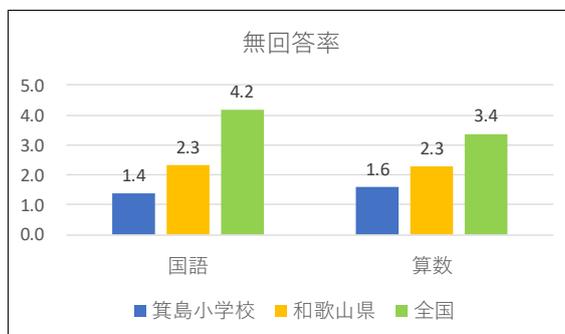
正答率は、全国と概ね同等の結果となりました。領域としては、「図形領域」と「変化と関係（速さ）領域」の問題で課題が見られました。

■課題①

小数の割り算で、商の概数を理解する問題で課題がありました。計算をするときに、概数をイメージできる機会を丁寧に持つことが必要だと考えています。

■課題②

計算方法は分かっているが、問われている点を理解できていない問題がありました。しっかりと問題文を読み、与えられていることは何か、問われていることは何かをしっかりと読み解く力を身につけていきたいと思えます。

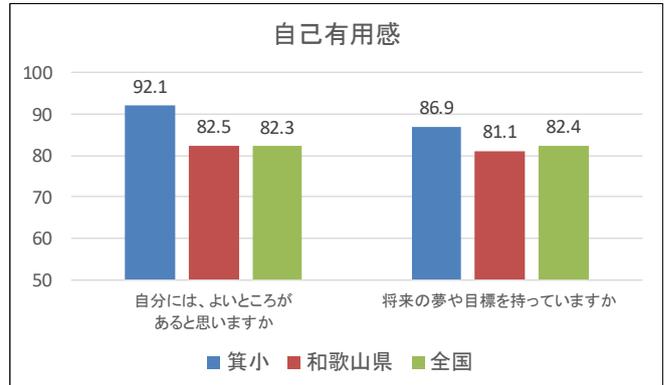


質問紙調査の結果分析より

児童質問紙調査は、児童の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査です。本校の結果は、全国平均と比較するとほとんどの質問項目で肯定的な回答となっています。また、100%の肯定的な回答になっている質問も63項目中15項目もありました。

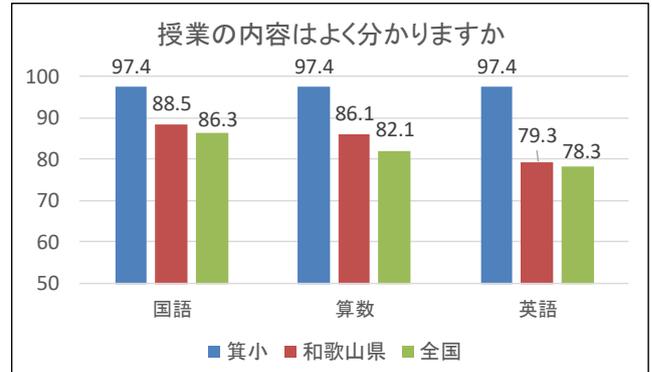
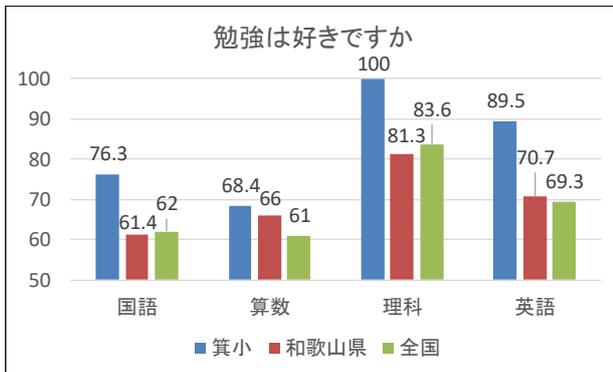
■生活習慣・自己有用感・規範意識について■

右のグラフに示すように、自己有用感を示す項目で本校児童は全国平均より高くなっています。ただ、この項目については引き続き100%になるよう取り組みを進めていきたいと思えます。生活習慣についての質問についても平均並みではありますが、100%になるようご家庭の協力を得ながら啓発・指導していきたいと思えます。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問では、100%の児童が肯定的回答となっており、いけないことをいけないとはっきりと考えることができます。



■教科に関する関心・理解度について■

下記グラフ結果の通り、本校児童の教科に対する関心・理解度は高いと言えます。
(「授業の内容はよく分かりますか」の理科についての質問はありませんでした。)



■授業方法の工夫改善について■

授業におけるPCの活用や、授業中に自分の考えを書いたり、課題解決に向けて考えたりするなど、授業方法に工夫があることを児童は受け止めています。このように授業方法を工夫することで、思考力・判断力・表現力をつけることにつながっていると考えています。

■地域とのつながりについて■

「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思えますか」の質問に対して92.1%の肯定的回答を得ています(全国差+8.6ポイント)。舍外清掃など地域の皆様方との連携した取組が、高い地域意識につながっていると考えられます。

調査結果を受けて、本校が具体的に取り組んでいくこと

- * 課題について考える場面や自分の意見を書く授業など、今後も授業の工夫改善を図り、子どもの思考力・判断力・表現力を向上させられるよう努めていきたいと思えます。
- * 「分かる授業」づくりを目指し、丁寧な授業づくりを進めるとともに、今回の調査結果を分析し、教科によって課題となった分野・領域・内容については、改めて丁寧に指導していきます。
- * 子どもの自己有用感を高めるために、行事等を中心とした自主・自律を尊重した活動に取り組んでいきたいと思えます。自己肯定感を問われる質問には100%の肯定的回答が得られることを目標に地域・家庭と連携しながら取り組んでいきたいと思えます。

今回の調査結果を受け、今後ご家庭のご協力をよろしくお願いいたします。